

拝略 暑い日が続いています。お変わりありませんか。お伺い申し上げます。

さて、日本教育学会の第 84 回大会が 8 月 23・24 日に上智大学を会場にして開催されました。

第 1 日目の午後に、ラウンドテーブルが設定され、

テーマ「戦後の「地方カリキュラム」と「地方学力テスト」の実態——全国調査による収集資料の整理・

検討から

——」

の下に、約 2 時間 30 分の時間を使って、熱心な討論が行われました。

その中で、金馬国晴氏による「『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集』の編集意図と過程及び分析」と題する

報告が行われ、全 27 巻の研究資料集刊行の意図や資料収集の方法、資料分析の方法等について、実に興味深い

お話がありました。また、北野秋男氏による、「『戦後学力テスト研究資料集』の編集意図と過程及び分析」

と題する報告が行われ、全 6 巻の編集の意図や資料収集の方法、資料分析の方法等について、お話がありました。

これまでほとんど知られていなかった貴重な情報が提供されました。

それを受けて、山口の方から、これらの研究資料の学術的意義、活用の方法や可能性等について、その後の討論を進める上での論点整理をするという形で、問題提起を試みました。

テーブルは、ZOOM で行われ、18 名の参加者がありました。日本の戦後教育研究の最先端を担う優れた研究者による質の高い討論が展開され、これらの研究資料を活用した、今後の戦後初期における地方カリキュラム

研究や地方学力テスト研究の進め方について、貴重な情報交換を行い、知見を深めることができました。

山口は、これらの研究資料集が、教育に関する理論的研究と実践的研究の往還の在り方を学ぶ上で大きな効果を

発揮することが期待されることを指摘し、学部レベルや教職大学院レベル、教員研修等の場でその特色を活かした

使い方を工夫していくことの大切さを指摘しました。

今回の事については、川角社長さんから情報や資料の提供など、いろいろな御協力、ご配慮を賜りました。

改めて厚く御礼申し上げます。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

暑い日が続くようです。どうぞご自愛頂き、ご健勝にてご活躍賜りますようお願い申し上げます。

取り急ぎの報告とお礼と致します。

敬具